

議会 だより



令和8年1月19日

いいだ市議会だより

IIDACITY-gikaidayori

No.245

編集/広報広聴委員会 発行/飯田市議会 〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534



自分たちのまちは 自分たちで守る(県)



～「**県地区防災士会**」を結成し、
地域防災力アップのモデルに～

第4回定例会 2P
委員会 3～7P
ズバリ市政を問う(代表・一般質問) 8～11P
議会報告・意見交換会 11P
議員紹介 ほか 12P



令和7年

第4回 定例会

11月26日
～
12月19日
開催

定例会のあらまし

開会日に、執行機関側から「専決処分」の報告について（損害賠償の額を定めることについて）など報告案件2件、「飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について」など条例案件9件、「公の施設の指定管理者の指定について（飯田デイサービスセンター）」など一般案件12件、「令和7年度飯田市の一般会計補正予算（第5号）案」など予算案件7件、合計30件の議案が上程され、所管の委員会に付託されました。

12月5日には、「飯田市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について」など条例案件3件、「令和7年度飯田市の一般会計補正予算（第6号）案」など予算案件9件、合計12件が追加議案として上程され、所管の委員会に付託されました。

さらに、閉会日には国の「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」に関する予算案件1件が追加議案として上程され、予算決算委員会に付託された後、本会議を休憩して議案審査を行いました。

これらの議案はいずれも原案のとおり可決されました。

さらに、委員会提出議案として社会文教委員会から「市民が安心して暮らせるための移

動手段について、更に検討を進めることを求める要望書の提出について」及び「診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬の改定等を求める意見書の提出について」の2件が上程され、原案のとおり可決されました。

議案に対する質疑と審査

委員会での質疑等の内容は、3ページからの常任委員会のページでその一部を紹介いたします。

請願・陳情

今定例会では、継続審査の陳情2件、新規の陳情1件の審査を行いました。審査の状況は、各常任委員会のページでご確認ください。

【陳情第5号の1】不採択

市に対し、高齢者のタクシーの利用助成をしてもらいたい（社会文教）

【陳情第5号の2】不採択

市に対し、高齢者のバス運賃を飯田市内一律100円にしてもらいたい。また、免許返納後の移動支援としてタクシーの利用助成をしてもらいたい（産業建設）

【陳情第8号】不採択

国に対し、診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬を10%以上引き上げるよう求める意見書を提出願いたい（社会文教）

陳情第8号については、本会議で委員長報告に対し反対の意思表示があったため、起立採決を行いました。

会派代表質問・一般質問

会派代表質問及び一般質問の内容の一部を8ページから質問順に紹介します。

可決した議会議案

【発委第7号】市民が安心して暮らせるための移動手段について、更に検討を進めることを求める要望書の提出について

提出先 飯田市長

【発委第8号】診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬の改定等を求める要望書の提出について

提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣、総務大臣、財務大臣

定例会の審議結果や本会議の様子は、飯田市議会ホームページ、YouTube「飯田市議会（中継）」でご覧いただけます。

飯田市議会ホームページアドレス
<https://www.city.iida.lg.jp/site/assembly/>



HP QRコード



開会日QRコード



閉会日QRコード

総務委員会

12月9日・16日に
委員会等を開催



委員会の様子は
YouTubeを
ご覧ください。

総務委員会へ付託となった議案8件について、慎重に審査を行った結果、いずれも原案のとおり可決することに決定しました。

議案第125号 飯田市上村コミュニティセンター条例の一部を改正する条例の制定について

Q 条例の施行日は令和8年2月1日だが、既に工事に着手しており部屋が使用できないため、利用者の立場では、早く使用料の改定をした方が良かったのではないか。

A 工事の完了予定は12月中で、1月中旬に消防団本部詰所の引越しを予定している。2月から施設が使用できるようになるため、施行日を2月1日とした。施設料金の変更のために、施設改修の設計を反映させる必要があった点、本部詰所の早期移転に向けて工事を優先する必要がある点から、条例改正の手続きが今定例会になってしまったが、事業の進め方については見直すべき点があった。

議案第131号 飯田市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の制定について

※飯田市消防団条例の全部を改正するもの

Q 基本団員は、「年齢が18歳以上であり、かつ、65歳に達した日以後における最初の3月31日までの者」と規定されているが、65歳は定年ではないという考えでよいのか。

A 年齢の要件は、所属が可能となる期間を規定している。

Q 条例だけをみると、どうしても65歳まで活動しなければならぬとみえてしまうが、支援団員は70歳までと規定する一方で、基本団員を65歳までと規定した理由は。



A 火災現場等で十分な活動ができる年齢層を一つの節目として捉えて、基本団員の上限を65歳と規定している。これは、定年という考えではなく、所属が可能な年齢という考えであり、65歳まで絶対に活動してくださいというわけではない。退団については柔軟に対応していく。

Q 現場で団員不足の声が聞こえる中で、基本団員の年齢幅を広げる条例の制定となるが、その中で支援団員制度を維持する意義と、支援団員の基本的な役割をどう捉えているか。

A 支援団員の職務は規則で定めることにしているが、支援団員は基本団員の一部の消防事務に従事することを規定する予定。

Q 条例の制定によつて基本団員の年齢上限が20歳引き上げられ、現役の消防団員のほぼ全てが消防活動に従事できる状況になる中で、支援団員制度を残すことの意味は何か。

A 将来的には支援団員が基本団員に移行して活動していただくことが理想であると考えている。また、支援団員の基本団員への移行が進む中で、支援団員制度の見直しが必要になるかは検討すべきであると考えている。

Q 休団制度の規定が新設されたが、休団制度は基本団員・支援団員ともに適用されるか。また、休団者の人数は定員に含まれるか。

A 休団制度は、基本団員・支援団員ともに適用となり、休団者は定員に含まれることになる。

《議案第131号に対する附帯決議について》

議案の採決直後、質疑が重なったことから、附帯決議を付すことの協議のために、予備日に改めて委員会の開催を求める動議があり可決しました。12月16日に開催した委員会では、附帯決議の内容と、附帯決議を行うか否かの2つの論点について「議員間自由討議」を行い、採決の結果、原案のとおり可決し、執行機関へ伝えることとしました。

附帯決議

1 第3条に定める「年齢」については、消防団活動に協力いただける団員確保の目的のために、あくまで所属可能年齢として運用すること。

2 第2条第1項に定める「定員839人」に對しての実団員の状況等を検証すると共に、同条第2項第3項に定める「基本団員」「支援団員」及び第8条に定める「休団」制度を含め、消防団活動がより運用しやすいものとなるよう、必要に応じて制度の見直しを行うこと。

《予算決算委員会 総務分科会》

予算案件のうち、総務分科会が審査を担当した議案2件については、いずれの議案も原案のとおり可決することに決定しました。

社会文教委員会

12月10日・16日に
委員会等を開催



委員会の様子は
YouTubeを
ご覧ください。

社会文教委員会に付託となった議案3件について、慎重に審査を行った結果、いずれも原案のとおり可決することに決定しました。議案審査における主な質疑の内容を紹介します。

議案第132号 公の施設の指定管理者の指定について(飯田デイサービスセンター)

【内容】 飯田デイサービスセンターの指定管理者を指定しようとするもの

Q 令和6年度の収支が赤字となった要因が利用者数の減少によるものとのことだが、減少した理由は何か。また、収支改善に向けた努力はどのようにしているか。

A 赤字の原因は、目標としている利用率7割に対して、利用者が介護施設への入所や感染症のため休んだことなどにより利用率が6割にとどまったためである。改善策として組織体制の見直しや、施設のPR、居宅介護支援事業所との連携による利用者の確保に努めている。

議案第142号 公の施設の指定管理者の指定について(飯田市総合運動場等)

【内容】 飯田市総合運動場、飯田勤労者体育センター及び飯田市青少年ホームの指定管理者を指定しようとするもの

Q 青少年ホームの収支が赤字である点と、外部評価で指摘された安全性に関する問題について、改善の見込みと方向性は。

A 3施設一体的な経理を行っており、人件費等を便宜的に仕分けした結果、青少年ホームが赤字となったが全体では黒字である。安全性については、庁内の指定管理者選定委員会において、今後5年間で検討することになっている。できるだけ早いうちに具体的な方針を決定したい。

陳情2件は「不採択」としました

〔令和7年 陳情第5号の1〕 継続審査

市に対し、高齢者のタクシーの利用助成をしてもらいたい。

〔陳情者〕

飯田市内 交通弱者の問題を考える会
代表 丹治 正教氏

【主な意見】 陳情者の思いやアンケートに寄せられた意見はよくわかったが、免許返納者や高齢者以外の交通手段に困っている市民もいるため、この内容では採択できない。

〔令和7年 陳情第8号〕 新規

国に対し、診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬を10%以上引き上げるよう求める意見書を提出願いたい。

〔陳情者〕

飯田市内 近藤 健氏

【主な意見】 陳情趣旨は理解でき、診療報酬を大幅に改定する必要性は認識するが、10%を明記することが適当か判断できない。

この陳情は、採択とする意見もあったため、挙手による採決を行いました。

動議による議会議案について

それぞれの陳情が不採択となった直後に、委員から改めて「市民が安心して暮らせるための移動手段について、更に検討を進めることを求める要望書」及び「診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬の改定等を求める意見書」を提出したいとする動議がありました。この2件については特段の質疑や意見もなく全会一致で決定し、12月16日に委員会を開催し要望書・意見書案を委員会の総意として決定し、議会議案発案第7号及び発案第8号として本会議に上程しました。※2ページ参照

《予算決算委員会 社会文教分科会》

当分科会に分担となった予算案件は11件です。主な質疑の内容をご紹介します。

議案第144号 令和7年度飯田市一般会計補正予算(第5号)案のうち当分科会分担分

● 小学校建設事業費について

Q 上村小学校改修建築事業に関して、今年度中の改修工事による授業への影響はどうか。

A 改修工事は、学校と調整のうえ、こどもたちの学校生活や、授業に影響が出ないように進めたいと考えている。なお職員室の改修は、春休みでないと工事ができないため、その時期に実施したいと考えている。

産業建設委員会

12月11日に
委員会等を開催



委員会の様子は
YouTubeを
ご覧ください。

今定例会に産業建設委員会へ付託となった議案13件について、慎重に審査を行った結果、いずれも原案のとおり可決することに決定しました。

議案第133号 公の施設の指定管理者の指定について（飯田市地域資源総合管理施設天龍峡活性化センター）

Q 評価の視点のうち「危機管理の対応等」の得点が低い。執行機関側から指定管理者に対し、改善策やアドバイスを提案しているか。

A 本施設は災害時の応急避難施設となっているが、所在する龍江地区から避難体制に係る意見があったことから、指定管理者と協議し改善に向けた取組を図る。

議案第134号 公の施設の指定管理者の指定について（飯田市大平宿生活原体験施設）

Q 全国的なクマの出没報道に伴うキャンセルがあったと説明があったが、当施設の安全対策の考えは。

A 大平宿における出沒情報は無いが、指定管理者が施設を専門に管理する職員を配置し、事前点検を実施するとともに、クマの出没時は、利用者や予約者に対して情報の共有を徹底する。

議案第135号 公の施設の指定管理者の指定について（飯田市上村若者センター等）

Q しらびそ高原施設（天の川）の令和8年度収支計画の内、委託料が増額となっているが、その内容と理由は。

A 毎月開催している星空観測会の星空案内業務を専門の星空案内人に委託している費用であり、今後は星空観測会の内容を更に充実するとともに、流星群ツアーなどの新たな企画に伴う経費を増額する。



Q 指定管理の期間を3年とした理由は。

A 指定管理施設数も多く、全ての施設の安定経営には課題がある。そういった中で指定管理の期間は、振返りがしやすい3年間とした。加えて、公共施設マネジメント基本方針の観点から地元の皆さんと協議を進めているが、今後3年間で施設のあり方の方角性を見いだしてまいりたい。

議案第141号 損害賠償の額を定めることについて

【内容】 下水道管理の瑕疵による宿泊施設への物的損害に係る損害賠償額を定めるもの

Q 事故原因となった下水道取付管の構造は、昭和40年代の整備工法として一般的なものであったか。

A 通常は、同一径の管を使用するが、本件は150ミリ径の管の中に100ミリ径の管が接続されていた状況であり、非常に稀な事案だった。

Q 同様の問題を生じさせないための再発防止策は。

A 取付管の素材が陶管で月に500立方メートル以上、下水道を使用している大口の事業者を抽出し、病院、食品加工施設、老人福祉施設、宿泊施設などの33箇所を調査し、うち4箇所で補修工事を実施した。

令和7年 陳情第5号の2（継続審査）は「不採択」としました

（陳情内容） 高齢者のバス運賃を飯田市内一律100円にしてもらいたい。また、免許返納後の移動支援としてタクシーの利用助成をしてもらいたい。

（陳情者）

飯田市内 交通弱者の問題を考える会
代表 丹治 正教 氏

【主な意見】 通勤、通学や買い物、中学生の部活動の地域移行など、交通弱者への支援は重要。高齢者に限定した助成は交通弱者全体の課題解決につながらず、財政を圧迫し市民サービス全体を弱体化させると懸念がある。

《予算決算委員会 産業建設分科会》

議案第144号 一般会計補正予算（第5号）案のほか分科会が審査を担当した議案7件については、いずれの議案も原案の通り可決しました。

予算決算委員会

予算決算委員会
及び分科会における
予算議案の審査の
様子は、YouTubeで
動画配信しています。



予算決算委員会は、12月8日に前期全体会を開催しました。

付託となった議案の主な概要は、「帯状疱疹予防接種事業に係る委託料」、「ふるさと寄附金増額見込みに伴う返礼品」、「遠山郷学園における小学校の再編に伴う施設改修工事」等の事業費の増額に伴う令和7年度一般会計補正予算（第5号）案のほか、「人事院勧告に伴う人件費」の増額に伴う令和7年度一般会計補正予算（第6号）案及び特別会計並びに企業会計の補正予算に係る予算議案16件でした。

付託となった予算議案については、総務、社会文教、産業建設の各分科会への分担を決定し、12月9日から11日にかけて審査しました。

12月18日に開催した後期全体会では、各分科会の審査について座長から報告を受けるとともに、議案を審査し、原案のとおり可決しました。

12月19日の本会議に上程され当委員会に付託となった国の補正予算にかかる「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」及び「物価高対応子育て応援手当」に関する飯田市一般会計補正予算（第7号）案は、本会議休憩中の委員会で担当する分科会への分担を省略し、審査の結果、原案のとおり可決しました。

議案第163号 令和7年度飯田市一般会計補正予算（第7号）案の概要

●物価高対応子育て応援手当給付事業

物価高の影響が長期化し、特にその影響を強く受けている子育て世帯を力強く支援し、我が国のこどもたちの健やかな成長を応援する観点から児童手当支給対象児童（令和7年9月30日時点）を養育する父母等を対象にこども1人当たり一律2万円を支給する。

補正予算額 310,072千円

●子育て世帯生活支援特別給付金給付事業

（ひとり親世帯分）

物価高の影響が長期化する中、経済的困難や養育不安を抱えやすいひとり親世帯への緊急的な支援として長野県が町村を対象に実施する「子育て世帯生活支援特別給付金（ひとり親世帯分）給付事業」に準じて、低所得のひとり親世帯を対象とした特別給付金をこども1人当たり一律1万円支給する。

補正予算額 10,971千円

●学校給食物価高騰対策支援事業

学校給食用の令和7年産新米価格が令和6年産米に比べ値上げとなったことから、令和8年1月分から増額分の米飯1食（米100グラム）当たり19円分の事業費を増額する。

補正予算額 6,113千円

議会運営委員会が管外視察を実施（10月29日～30日まで）

日高市議会にて▶



議会運営委員会では、「SNSによる情報発信・表現活動」、「議会・議員の在り方」をテーマに、県外の先進地を視察しました。

視察先では、当議会でも課題となっている事象に対し、議員同士の活発な意見交換を通して多くの新しい視点を得ることができ、視察で得た成果を今後の委員会活動に生かしていきます。



◀上越市議会にて

○〔埼玉県 日高市議会〕

市議会及び議員のソーシャルメディア運用に関するガイドラインについて

○〔新潟県 上越市議会〕

議会・議員の在り方と適正な議員定数について

リニア推進 特別委員会

12月15日に
委員会を開催



委員会の様子は
YouTubeを
ご覧ください。

「リニア中央新幹線土曽川橋りょうへの要対策土活用に関する安全確認委員会」について

リニア中央新幹線工事に伴い、土壌汚染対策法の基準値に適合しない自然由来の重金属等を含む要対策土を、土曽川橋りょうの橋脚基礎内部に活用するにあたり、市はJR東海と確認書を締結している。この確認書の内容が確実に履行されているかについて、活用したことによる環境への影響について確認を行うことを目的とした委員会を設置したとの説明がありました。

Q 要対策土の搬入作業に関して、地元住民への説明はなされていると思うが、それ以外に問い合わせや連絡はあったか。

A 要対策土の投入作業時及び作業完了後において、市側には特に問い合わせや連絡はなかった。

リニア駅前広場交流施設（仮称）の建設について

令和10年度の駅前広場一部供用開始に合わせ、広場のトイレ・管理機能に加え、住民が日常的に集うコミュニティ活動や情報発信の場として、整備可能区域で市が建設するとの説明がありました。

Q こどもや家族が集まる場所として、施設の具体的な機能をしっかりと検討すべきである。また、日常的な賑わいの創出に関する機能整備も重要ではないか。

A 子育て関連の機能は重要であり、現在飯田・リニア駅前広場プラットフォームの運営事業を中心に検討するワーキンググループで広場でのこどもの体験活動も視野に入れ、議論が進められている。そうした活動も支援できると、ワーキンググループで検討していく。

Q 施設は市民のための広場という認識だが、地域住民が日常的に集える「ミニコミュニティ」という表現があるため、市民と地域住民の利用対象を分けて考えているのか。

A 市民も地域住民も飯田市民であり、施設は広く市民が使うものであるが、地域住民が積極的に利用することで、広場の賑わいにつながることを期待している。

リニア駅前広場の利活用に向けた取組の報告について

駅前広場の利活用の検討は、デザインノート、プラットフォーム、まちの付加価値の向上を視点に民間事業者と進めているとの説明がありました。

Q 現時点のプラットフォームへの参加事業者数は、十分な数だと判断しているのか。

A プラットフォームの目標は広場の運営を担う事業者を作っていくことでもあり、まずは今の規模でしっかり中身を練ることを考えている。

三遠南信地域市町村議会議長協議会総会及び三遠南信、浜松湖西豊橋道路建設促進議員協議会総会を開催しました。

10月6日に飯田市で開催された第33回三遠南信サミットに併せ、三遠南信地域市町村議会議長協議会総会及び三遠南信、浜松湖西豊橋道路建設促進議員協議会総会を、飯田市議会が当番市として開催しました。主な内容は次のとおりです。

《三遠南信地域市町村議会議長協議会総会》

◆会の目的 東三河、遠州及び南信州地域の市町村議会の連携の下、県境を越えた一体的な発展の実現を図ることを目的とする。

◆議事 ①会務報告、②役員選任について

③次期開催地について

◆講演 「三遠南信自動車道の開通を見据えた広域観光」

講師 飯田市産業経済部長 市瀬智章 氏

《三遠南信、浜松湖西豊橋道路建設促進議員協議会総会》

◆会の目的 三遠南信、浜松湖西豊橋道路の早期建設を強力に促進し、関係地域の振興発展と住民福祉の向上のために積極的な活動を行うことを目的とする。

◆議事 ①会務報告、②役員選任について

③事業計画について、④次期開催地について

◆現況報告 「三遠南信自動車道の整備状況」報告者 国土交通省 中部地方整備局

飯田国道事務所長 中川哲也 氏

代表質問 8～9 ページ

会派代表質問

各会派の代表者が市政全般について質問します。会派の意見を次年度の予算に反映させやすいよう、飯田市議会では、第4回定例会に行っています。

一般質問 9～11 ページ

市政全般にわたり、市長をはじめとする執行機関側に、事業の執行状況、将来的な方針などを質し、説明を求めるものです。第4回定例会では、10人の議員が質問しました。

ズバリ！ 市政を問う

第4回定例会の代表質問と一般質問の概要を紹介します。

一般質問はこちらから



- ▶ 質問順に掲載
- ▶ 末尾の■は、他の質問項目
- ▶ 質問の様子は、Youtubeで動画配信しています



長期的視点に立った飯田市のまちづくりについて ～全市的な土地利用・大規模事業の実施時期の考え方～



会派代表質問 会派きぼう

福澤 克憲 議員

Q リニア・三遠南信時代を見据えた、広域的・全市的な視点に立った土地利用、具体的な計画の考え方は。

A 「リニアの整備効果を地域振興に活かすビジョン(案)」に基づき、土地利用の方向性を明確化し、これに沿って土地利用の見直しを行っていく方針である。リニア時代のビジョンについて地域全体で将来像を共有し議論するために、「まちの未来図(案)のたたき台」を作成し、暮らしや産業、観光、文化、スポーツといった要素別に示したい。

Q 長期的視点に立った大規模事業(新文化会館、学校体育館空調設備等)の具体的な実施時期の考え方は。

A 今後10年間はリニアの開業が見込めない中で、その他の大規模事業にどのように取り組んでいくかは市政運営上大変重要な論点である。その間の国や県の補助金や有利な条件の地方債の活用により資金を調達しつつ、基金による財源調整を行い、優先順位に配慮しながら必要な投資を行っていく。その中でも、小中学校の体育館の空調設備の整備は優先順位が高いものと考えている。



持続可能な住民自治を進めるためには 地域自治組織の課題と、解決に向けた方向性は



会派代表質問 新政いいだ

下平 恒男 議員

Q 地域自治組織の導入から20年の節目を前に、仕組みへの何らかの対応が必要では。

A 社会構造が変化する中でも自治の根幹であるムトスの精神を次世代に引き継ぐことが重要であると認識している。現在の組合加入率低下や役員負担増の課題は深刻化している。この社会状況の変化を踏まえ、各地区の住民と共に、参加しやすい仕組みづくりや、緩やかなつながりから関係を深めていく方法を考える取組を推進していく。

Q 焼き肉の街のブランド化に向け、魅力を観光誘客や地域の活性化にどう活かすか。

A 「日本縦断焼肉連携協議会」を通じて、北海道北見市、沖縄県石垣市との三市連携を強化し、観光誘客と地域活性化を図っている。本年は11月を飯田焼肉月間と位置づけ、シンポジウムや検定、ガストロノミーツアー等の独自イベントを展開した。今後は多様な地域資源を組み合わせた取組を開発し、各種メディアを活用した情報発信を強化することで、地域経済の活性化や観光客誘致に繋げていく。



自治基本条例の学び直しから今後の展望は リニア駅周辺の整備を多角的に取り組む考えは



会派代表質問 公明党

小林 真一 議員

Q 人口減少や高齢化により河川清掃など地域の様々な活動が困難であるとの現状から市民に期待することは。

A 各地区で行われている草刈りや環境美化活動、道普請への熱心な取組に感謝している。人口減少や高齢化によってこれまで通りの活動が難しいという現実があるため、場所によっては業者委託や行政による介入が必要になってくるとの認識である。一方で、業者や行政が全てを実施するのではなく、地域作業を通じて住民の関係づくりの機会を大切にしながら、社会変化に柔軟に対応していきたい。

Q 水素活用プランとリニア駅周辺整備基本計画によるリニア駅周辺のグリーン水素活用の見込みは。

A 水素利活用ビジョンを策定し、地域での社会実装を本格化する方針であるが、リニア駅周辺での具体的な活用方法はまだ決まっていない状態である。リニア駅周辺の一部供用開始時からグリーン水素の実証タウンとして情報発信を行い、将来的には水素バスなどの二次交通への活用を視野に入れ、具体的な検討を進めていけることを期待している。



市民生活の安心と持続可能な地域経営の在り方について ～くらしを守り、持続可能な地域にするために～



会派代表質問 日本共産党

市瀬 芳明 議員

Q 物価高騰に対し市民の皆さんから切実な声が寄せられている。生活への影響をどのように捉えているか。

A 令和4年以降の急激な物価高騰が市民生活に影響しており、特に年金生活者、低所得世帯、子育て世帯で影響が深刻であると認識している。事業者においても、利用料金に転嫁しにくい社会福祉施設や医療機関等に対し国の交付金を活用し支援策に取り組んでいる。引き続き、実態把握に努め、国県の動向を注視しつつ、必要な支援策を迅速に講じていく。

Q 内陸の源流都市として海洋プラスチック削減に寄与する取組を構築していく考えがあるか。

A 飯田市は、海に流れ込む天竜川の源流域としての自覚が求められるものと考えている。ごみの適正排出や環境美化、天然素材の活用促進などを、動画やポスターを活用して市民に分かりやすく周知してまいりたい。現時点では「内陸・源流都市モデル」の構築を掲げて、特別に取り組む考えはないが、海洋プラスチックの削減にはしっかりと取り組んでいく。

飯田市の女性活躍について

岡村 弘子 議員 (公明党)



Q 女性が安心して住み続けたいと思えるために、女性の意見を取り入れる取組は。

A 組織の意思決定に女性の意見を反映させるには、組織の役割への女性の登用率を上げることが重要と考えている。これまで地域や審議会等での女性登用の働きかけや企業等における女性管理職の実態調査を行った。女性同士のつながりや自発的な意見交換の場が地域での女性参画となるため、今後も女性の意見を幅広く取り入れられる機会を設けていく。

困難を抱える若者の居場所支援をどう考えるか

宮脇 邦彦 議員 (公明党)



Q 不登校、ひきこもり等の生きづらさを抱える世代へ「ユースセンター」の取組を生かしては。

A 不登校生徒に対するフリースクールなどの既存の支援体制に加え、若者の主体的な活動支援としてムトスぷらざでの「ふらっと会議」や高校生等若者ワーキングを交流、創発の場として展開している。ユースセンター構想については、若者の課題や要望に応えるハード、ソフト両面の環境整備のほか、若者に関する施策の優先順位を考慮しながら研究を進めていく。

放置竹林整備を核とした地域活性化について

岡 本 恒 和 議員 (新政いいだ)



A 放置竹林整備の継続性を確保するため、NPO法人や企業など多様な主体に参画を促し、水平的な展開により収益の向上を目指す。竹林資源の多面的活用を図るため、体験活動と維持管理作業の一体的な政策検討を進め、収益へつなげるべく庁内横断型で支援を実施する。また、竹林整備の活動を観光資源として位置づけ、SNS等を活用した情報発信をしつかり行っていく。

Q 伐採からブランド化までの6次産業化と地域活性化の進め方について、市の方針は。

「カーボンニュートラル食育戦略」について

片 町 元 彦 議員 (会派きぼう)



A 学校給食へのジビエ導入は、地域内消費拡大に有効であると考えている。しかし、提供の実現のためには、こどもたちに喜ばれる献立開発、食数に対応する供給量の確保、供給価格、こどもや保護者から理解を得ることなどの課題がある。ジビエ献立の提供実績がある南信濃給食センターでの取組を進め、学校給食でのジビエ活用の可能性を探っていきたい。

Q オーガニック給食にジビエを組み合わせて提供することは有効と考えるか。

図書館の役割について

関 島 百 合 議員 (会派きぼう)



A 飲食等を通じたくつろげるスペースの提供が、新規来館者の誘致や気楽な居場所として有効であることを認識している。図書館にくつろげる場を設けることは利用促進に資すると判断しており、赤門前の活用提案を含め、今後、他の図書館の事例も集めながら、具体的にどのような形でスペースを提供できるか積極的研究を進めていく。

■飯田市の民俗芸能について

Q 中央図書館で実施した「図書館マルシェ」の成果を活かし、くつろげる場の設置を検討できないか。

交通弱者への移動支援について

佐々木 博 子 議員 (新政いいだ)



A 返納後の新しいライフスタイルへの移行に伴い、公共交通の利用を促すきっかけづくりとして、バス又は乗合タクシーの回数券を一度だけ補助している。ただし、免許の返納者からは永続的な支援を求める声があることを把握しており、今後は公共交通の利用によって安心して免許の返納ができる環境づくりについて検討していく。

Q 運転免許返納者への支援が一度きりとなっているのはなぜか。

野生動物との共存について

松 岡 秀 治 議員 (会派きぼう)



A 公開しているクマ・サル出没マップと現在作成中のゾーニングマップは同じシステムを使用している。今後は議員の提案を活かし、これら2つのデータを照らし合わせることで、緩衝帯整備の優先順位付けや効果の検証を行うことで、課題が明確になり、対策を立てやすくなるよう、施策に役立てていく。

Q 「いいだWEBまつぶ」と様々な森林整備事業を組み合わせた課題の把握や戦略の立案に活かさないか。

産後のデイケア利用における市の補助制度の方向性は

水 月 レ イ 議員 (会派きぼう)



A 授乳や育児の困りごとについて助産師に相談する際の費用を助成する授乳育児相談助成事業を実施している。もう少し長く相談したいという声も把握しているので、通所型の実施に向けて検討していく。通所型や訪問型の産後ケアサービス実施に向けた検討の中で、利用料にかかる補助額についても合わせて検討していきたい。

Q 産後の母親の心と体、赤ちゃんのケアのため、デイケア利用に補助があると心強いがどうか。

飯田市にとっての 理想的な道の駅について

野 崎 直 仁 議員（無会派）

A 快適で安全な休憩場所、地元食材を活用した飲食・物販施設、そして広域観光案内所を備えた道の駅が理想的である。道の駅遠山郷は、これらの機能に加え、人々が交流する体験交流機能を持つ地域活性化の拠点であり、大規模災害に備えた避難施設としての防災機能も兼ね備えた施設であって、「信州の南の玄関口」として非常に重要な施設であると認識している。

Q 市長にとっての理想的な道の駅とはどういうものか。

議場の市章や国旗の掲揚 について

遠 山 雄 議員（会派きぼう）

A 議場における市章、国旗の掲揚の検討は、飯田市議会棟管理規程に定められているとおり、議会事務局長の権限に属する事項である。したがって、執行機関には、掲揚の是非や方針を示す権限がないため、答弁する立場にない。

■SDGsの推進について

Q 議場において市章、国旗の掲揚が必要だと個人的に考えるがどうか。

議会報告・意見交換会

テーマ「議会・議員の在るべき姿について」

「議会報告・意見交換会」は、今年もまちづくり委員会のご協力をいただき、共催の形で10月上旬に7日間・8会場の日程で開催しました。

今年度の議会報告・意見交換会はテーマを「議会・議員の在るべき姿について」として、議会の取組を報告するとともに、市民のみなさんが考える議会・議員の在るべき姿をお聴きし、意見交換することで、今後の議会・議員の在り方の検討に役立てる機会としました。

今年度はより多くの市民の方に来ていただけるように組合回覧のチラシのほか、議員が個々にチラシを配るなどして広く参加を呼びかけ、参加したことになった方にも参加いただくことができました。

また、意見交換では、気軽に発言していただけるように少人数のグループに分かれ、簡単な自己紹介を行い、緊張をほぐしてから始めました。グループごとに円になって意見交換を行ったため、やり取りが密にできたことが好評でした。

テーマに関していただいたご意見は、新たに設置した「議会の在り方検討委員会」で議論し、議会の在るべき姿について認識を共有し、一定の方向性を確認いたします。

参加していただいた方にアンケートをとった結果、「議会報告・意見交換会」を開催したことに関する質問では「評価する」が

87.3%、全体の構成に関しては「良かった」が76.8%で、おおむね好評であったと受け止めました。

今後も議会報告・意見交換会に多くの市民の皆さんに参加していただけるように開催方法を工夫して取り組んでまいります。

◆意見交換で出された意見の一部を紹介します。（広報広聴委員会のまとめから）

- ・選挙に出たい人がいても、地域のためにやってくれるかどうかは別。選挙なら選ばれた人だから民意である。
- ・議会ですべての事がよくわからない。
- ・まちづくり委員会などの場で（役員は）話を聞く機会があるが役員以外は（議員は）遠い存在だと思う。
- ・もっと勉強してパフォーマンスで終わらずに伝える力を身に付けてほしい。
- ・20代30代は議員、議会に接点を持つことが少ないと思う。その接点をどう作るのが課題になる。
- ・市民と話す機会をもっと作ってほしい。
- ・地域で頑張っている人がたくさんいる。皆さん熱意が感じられ良いと思う。



議員紹介

議員の人となりなどを議員自らが紹介します。(議席順に掲載)



～このまちと、これから～

おか もと つね かず
 岡 本 恒 和

上京の日、飯田駅から乗った急行
 電車の窓越しに、風越山が静かに見
 送ってくれたあの情景を今も覚えて

います。いつかはこの地に戻り、心に描いた仕事を
 しよう——そんな思いが胸に芽生えた瞬間でした。

30年前、長男の誕生を機に「故郷で子供と暮ら
 したい」という気持ちが強く湧き、「今こそ帰る時」
 と決意し、故郷へ戻りました。多くのご縁に恵まれ、
 家族と共に飯田で穏やかに暮らせていることに日々
 幸せを感じています。そして今、地域の皆さまに支
 えられ、議員として新しい一歩を踏み出すことがで
 きました。これからも、出会いやつながりを大切
 にしながら、このまちのために自分にできることを、
 一つひとつ重ねていきたいと思っています。



～健幸ライフ～

おか むら ひろ こ
 岡 村 弘 子

想像できないと思いますが、中学
 高校時代は軟式テニス部で真っ黒に
 日焼けし汗を流していました。市民

運動会ではムカデ競争の先頭を任せられ『いっちに、
 いっちに』の掛け声と共に次のムカデさんにタスキ
 を渡し、地元万寿山の常会対抗バレーボール大会
 は未経験の私も身長を生かして盛り上がりました。
 勝っても負けてもみんなで励まし合った最高の時間
 でした。あっという間に年齢を重ね、継続できてい
 たのは入浴介助で滝のような汗を流すことと危険を
 感じた時に入る瞬発力、移乗や体位変換の時の筋ト
 レでした。歩こう動こうプラステン！こんな私に今
 から始めるスポーツのお勧めありますか。健幸ライ
 フ目指して、皆さんも私と一緒に始めませんか？

議会の動き(予定)

■令和8年第1回定例会 傍聴にお越しください。
 開会日2月27日(金) 閉会日3月23日(月)

◇代表質問・一般質問

3月5日(木)、6日(金)

◇委員会日程

予算決算委員会前期全体会	3月9日(月)
総務委員会	3月10日(火)、11日(水)
社会文教委員会	3月11日(水)、12日(木)
産業建設委員会	3月12日(木)、13日(金)
リニア推進特別委員会	3月16日(月)
予算決算委員会後期全体会	3月19日(木)

■議会への請願・陳情は、議会事務局へ
 2月10日(火)午後5時までにご提出ください。

議会傍聴に際してのお願い

議場や委員会室に入る場合は、帽子、コート、
 マフラーの着用、傘の類の携帯はご遠慮くださ
 い。(病気その他の理由により会議への出席に必
 要と認められる物であって議長にあらかじめ届
 け出たものは例外となりますので議会事務局職
 員にお申し出ください。)

広報広聴委員会

委員長／関島 百合 副委員長／長谷部 春生
 委員／水月 レイ 森本 紘司 岡本 恒和 岡村 弘子
 野崎 直仁 松岡 秀治 市瀬 芳明

表紙 紹介

がんばっとるに!! 鼎

有事の際には、必ずしも、地区の特定の役員が
 参集できるとは限りません。参集できた人で、地区
 災害対策本部を動かしていこうと、このたび、地区
 防災計画と自主防災会規約を大幅に見直しました。

こうした動きに呼応して、鼎地区では、「自分た
 ちのまちは、自分たちで守ろう」と、市内では初
 となる「防災士会」が立ち上がったところです。

11月20日には30名を超える有志が集まり設
 立総会を開催。役員を選出し会の目的や活動内容
 が確認されました。自主防災会の役員は2年で交
 替してしまうため、ノウハウを引き継ぐことができ
 ず、これまで地域課題となっていました。この空白
 を埋めたのが、有志で結成された「防災士会」です。

組合加入率が減少し、人間関係の希薄化が懸念
 される当地域にとって、こうした動きは、「共助」
 の下支えにつながります。

今後は、地域の防災力の強化に貢献するグルー
 プや個人等を予め登録し、自主防
 災会の活動を側
 面的に支援してい
 く「(仮称) 防災サ
 ポーター」として
 の活躍が期待され
 ています。



11月20日 防災士会結成式